

第4学年 外国語活動学習指導案 大森東 OGC（国際教育）

日時：令和7年1月30日（木）第5校時
 学級：4年1組・A組 26名
 少人数授業 13名
 場所：海外体験ルーム
 指導者：シールズ クリスチャン慶敏
 外国語教育指導員：Darla Therese Cornett

1 単元名 This is my favorite place. ～自分の学校の好きな場所を紹介しよう～

2 単元の目標

自分の好きな場所を伝え合うために、そこまでたどり着くまでの道のりを説明することができるようにする。

関係する領域別目標 話すこと [発表]

ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。

<国際教育の目標>

- 英語表現を理解し、実際のやり取りにおいて活用する力を身に付ける。
- 相手や場に応じた適切な表現を選ぶことができる。
- 相手に伝わりやすい方法を工夫して表現できる。
- 自分が考えたことを積極的に発信しようとする態度を養う。

3 単元の学習活動に即した具体的な評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
外国語活動 話すこと [発表]	教科名や教室名の言い方や道案内の仕方に慣れ親しんでいる。	自分が好きな校内の場所に案内したり、その場所について伝え合ったりしている。	相手に配慮しながら、自分が好きな場所について伝え合おうとしている。
国際教育 視点の 評価規準	① 世界と日本の学校生活の共通点や違いを通して、多様な考え方があはることに気付いている。	① サポートを受けながら OGC City 内での道案内やアバターとのやり取りをしている。	① 相手に分かりやすく伝わるように、ジェスチャーを用いたり、指導者のサポートを受けたりしながら案内し、紹介した場所でアバターや外国語教育指導員とのやり取りをしようとしている。

4 言語材料

語句

cooking room, lunchroom, school principal's office, teachers' office, school nurse's office, library, classroom, restroom, playground, computer room, music, school office, arts and crafts room, science room, gym

表現

What's your favorite place? My favorite place is the gym. This is the gym.

I like P.E. I like dodgeball. Do you like dodgeball? Go straight. Turn right. Turn left. We're here.

5 単元について

中学年では、「相手を意識して英語で伝えることができる児童」「日本各地や外国の文化・伝統に興味をもつとともに、それらを比較して違いに気付く児童」を目指している。OGC では、やり取りや発表をした際に、分かりやすく標準的な発音を目指し、発音の強化を重点的に行ってきた。また、相手に分かりやすく伝えるために、英語で話すだけでなくジェスチャーを用いることの有効性も意識させてきた。

本単元は、Let's Try! 2 Unit 8「This is my favorite place.」の活動を基に構想している。ここでは、校内の自分の好きな場所へ案内したり紹介したりするために、校内の場所についての語句や道案内するためのやり取りの表現に慣れ親しむことをねらいとしている。

本単元では、OGC City を活用し、身に付けた英語表現を発展させ、実践的な英語力を身に付けさせたいと考えた。児童は、ガイドになりきり OGC City の中で自分の好きな場所に案内する。案内の途中には、アバターまたは、外国語教育指導員とやり取りをする。英語での発話を聞いて答える機会を設けることで、英語を聞く力を伸ばすとともに、場に応じた適切な英語表現を考えて使うことで、より自信を付けさせることができると考えた。外国語教育指導員をやり取りの相手にするすることで、OGC City に搭載されていない場面に応じた自然な言葉かけを取り入れることができ、幅広いやり取りの体験が可能になる。

単元前半の校内の好きな場所を紹介する活動は、学級内の児童全員に対し、OGCT と外国語教育指導員の TT 体制で行い、一斉授業の中で場所の名前や道案内の英語表現を身に付けさせていく。校内の図書室や保健室など、多くの場所を案内する活動を充実させることで、room と office の違いなど英語表現の定着を図っていききたい。その後、少人数で OGC City を活用し、実践的に英語を使う機会を設けた。少人数にすることで発言の機会が増え、紹介や道案内の学習に繰り返し取り組む中で、個別に近い丁寧な指導が可能になると考えた。また、OGC City という没入感の中で道案内をする体験を通して、実際に英語を使って目的地にたどり着くことができたと達成感も得られることが期待できる。

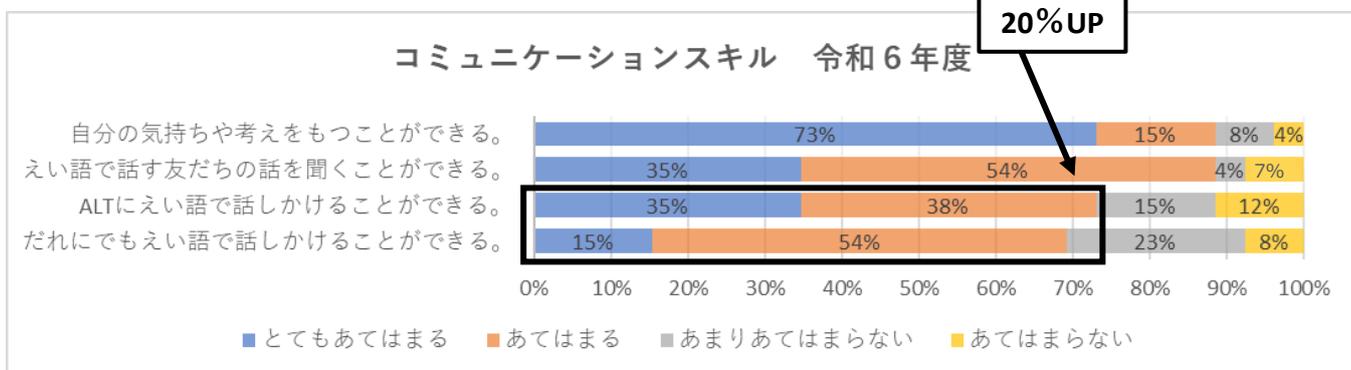
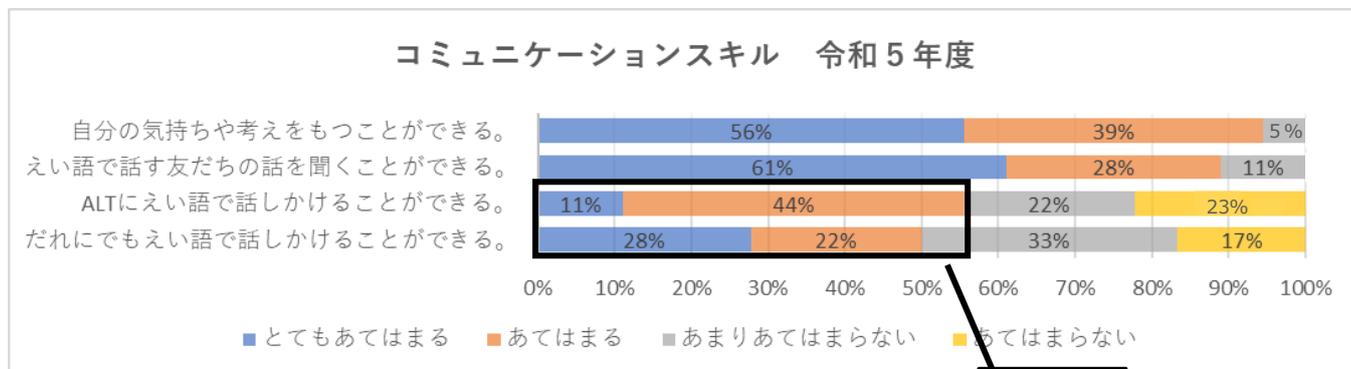
毎時間の活動の中には、他国の学校や教科のこと、外国語教育指導員の好きな場所の紹介などを聞く時間を設けた。ここでは、国同士の共通点や違いに気付かせ、他の国の文化に興味・関心を広げ、多様性を理解することにつなげていきたい。

これらの活動を通して、その場に合った表現を選んで使える実践的な英語力、相手を意識して英語で発信する力、多様性を認め合う心情を育み、グローバルな人材としての素地を養っていききたい。

6 児童について

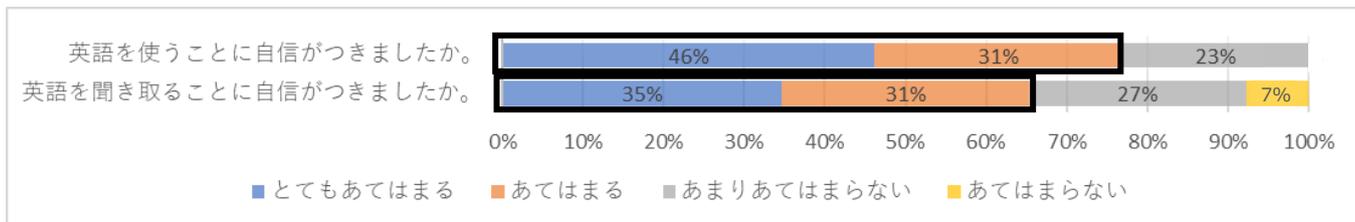
本学級の児童は、外国にルーツをもつ児童が多く国際色豊かである。外国語教育指導員の国を紹介する際には、「中国ではこうするんだよ。」「ネパールと同じだね。」という声上がるなど、自分や友達の子の共通点や違いに気付き、それを他者に伝えたいという気持ちが感じられる。

本校で行った、OGC の時間におけるコミュニケーションスキルに関するアンケートの結果では、令和5年度から6年度で以下のような変化が見られた。



「ALT（外国語教育指導員）に英語で話しかけることができる」「誰にでも英語で話しかけることができる」の項目が、昨年度と比べるとおよそ20%向上したことが分かる。

また、令和6年9月に実施した英語力に関するアンケートの結果は、以下ようになった。



本学級の児童は、英語を聞き取るよりも、英語を使うことに自信をもっていることが分かる。少人数にすることで一人一人が英語を使って話す機会や、外国語教育指導員や OGCT が個別にやり取りする機会を増やすことができたことが効果的だったと考えられる。

これらのことから、本単元では少人数の学習形態で OGC City を用いて自分の好きな場所まで案内し、そこを紹介する活動を設定した。そうすることで、児童が英語を使って自分の思いを伝えられると考えた。また、自分の好きな場所へ案内する途中では、OGC City 内のアバターとやり取りをすることで、英語を聞き取る力も伸ばしていけると考えた。OGC City を少人数で活用することで、さらに実践的な英語力を培い、国際社会で活躍できるグローバルな人材を育てていきたい。

7 国際教育の視点における指導と評価の計画

時	ねらい	主な学習活動・内容	知	思	主	評価方法
1	Go straight, Turn right などの方向の表現に慣れる。 My classroom, gym, playground などの自分の学校の場所の名前に慣れる。	○Small Talk で 外国の教科を知り、違いを見付ける。 ○案内するための表現を覚える。 ○教室、時間割、給食などについての基本的な表現を学ぶ。				※国際教育の視点における評価は行わない。
2	校内の自分の好きな場所を紹介したり、案内したりする。	○Small Talk で 外国語教育指導員の出身国の学校について知る。 ○タブレット型端末を活用し、英語表現を使って校内を案内する。				※国際教育の視点における評価は行わない。
3	OGC City の中を探検し、好きな場所を見付ける。	○Small Talk で 外国の地図の違いを見付ける。 ○OGC City 内の地図を使って好きな場所の名前の英語表現を学ぶ。	①			世界と日本の学校生活の共通点や違いを通して、多様な考え方があることに気付いている。 (行動観察・発表・記録)
4	ツアーガイドになりきって好きな場所に案内し、その場にあった表現を考える。	○Small Talk で海外でのレストランでのマナーを知る。 ○OGC City 内のアバターと話す。 ○道案内しながら、アバターと話す。		①		サポートを受けながら OGC City 内での道案内やアバターとのやり取りをしている。 (行動観察)
5	好きな場所に案内する際のジェスチャーやアクションを用いながら案内する。	○リアクションの仕方について知る。 ○道案内をする。 ○OGC City 内を案内する。		①		
6 本時	ツアーガイドになりきって好きな場所に友達を案内する。	○表現の確認をする。 ○グループ発表をする。 ○外国語教育指導員の一番の好きな場所を聞く。			①	相手に分かりやすく伝えるように、ジェスチャーを用いたり、指導者のサポートを受けたりしながら案内し、紹介した場所でアバターや外国語教育指導員とのやり取りをしようとしている。 (行動観察・発表・記録)

8 本単元における研究主題に迫るための具体的な手だて

(1) 海外体験ルーム OGC City の活用

世界と日本の学校生活の共通点や差異点を通して、多様な考え方があることに気付くために、OGC City の活用による没入感のある体験活動の場を設定した。

また、聞き取る力も伸ばし、高学年でのやり取りにつなげるために、OGC City 内のアバターに英語で話しかける活動も取り入れた。

(2) 少人数の学習

自分の発表に自信をもち、自己肯定感を向上するために、少人数での学習のメリットを活かし、発表者を二人一組にした。また、英語力を向上するために、発表の回数を増やした。

(3) イングリッシュサーキットの活用

外国の方と話すことを想定し実践的な英語力をさらに高め、即興性のあるやり取りをするために、イングリッシュサーキットという活動を設定した。

※イングリッシュサーキットとは、体を動かしながら既習事項を反復することで、即興性が必要な状況で英語表現を言えるような場である。海外体験ルームを活用することで、既習表現をいくつも何度でも表示したり、ゲーム感覚でより難易度の高いものに変えたりすることができ、即興性のあるやり取りが可能になるため、外国の方と話すことを想定したより実践的な英語力を養えると考えた。

活動は、質問とリアクションをする児童 A と、その返答をする児童 B がペアになって行う。ペアでパネル 1 からパネル 6 へとやり取りをしながら進み、パネル 6 まで終わったら、A と B の役割を交代し、2 周目を行う。

イングリッシュサーキット例

パネル 1	パネル 2	パネル 3	パネル 4	パネル 5	パネル 6
A: How are you?	A: How many balls?	A: What color do you like?	A: What food do you like?	A: What sports do you like?	A: What fruit do you like?
B: I'm fine.	B: 12	B: I like blue.	B: I like ramen.	B: I like golf.	B: I like apples.
A: Okay.	A: I see.	A: That's nice.	A: Oh, really.	A: That's great.	A: Me, too.

(4) 外国語教育指導員の活用

他の国の文化に興味関心を広げ、多様性を理解することにつなげるために、Small Talk の活動の中に、他国の学校や教科のこと、外国語教育指導員の好きな場所の紹介などを聞く時間を設けた。

9 本時の学習（全6時間扱いの第6時間目）

(1) 本時の目標

相手に分かりやすく伝わるように、ジェスチャーを用いようとしたり、指導者のサポートを受けたりしながら案内し、紹介した場所でアバターや外国語教育指導員とのやり取りをしようとする。

(2) 本時の展開

過程	形態	学習活動	○指導内容 ●支援 ☆留意点	※研究との関連 (個別の手だて)	評価事項
導入 つかむ 10分	全体 ペア 全体	<p>1 Greeting 挨拶をし、本時の内容と目標を確認する。</p> <p>2 Warm Up イングリッシュサーキットを使って、やり取りをする。 ・パネルの絵に合った、6通りのQ&Aを行う。 ・質問者と回答者を交代して、2周する。</p> <p>3 Today's Goal</p>	<p>○児童の発表への意識やジェスチャー、表現の方法を確認させる。</p> <p>●既習事項を復習し、学習しやすい雰囲気作りをする。</p>	<p>※使える英語を反復することでコミュニケーション力の向上を促す。</p>	
<p>友達に好きなところを知ってもらうために案内しよう。</p>					
展開 広げて深める 30分	グループ 全体	<p>4 Activity OGC City内の自分の好きな場所や行き方について、簡単なやり取りを含めた発表をする。 ・ペアで6グループが発表を行う。 ・1グループ3～5分程度（評価時間も含む）で発表する。</p> <p>5 Small Talk 外国語教育指導員の好きな場所の紹介を聞く。</p>	<p>●発表の仕方がわからなくなった場合は必要なサポートをしながら、児童が自分の好きな場所まで案内できるように支援する。</p> <p>○それぞれのグループごとによかったところを伝え、価値付ける。 ☆やり取りを観察する児童に、観察の視点を伝える。</p> <p>○外国語教育指導員の出身国のアメリカでの好きな場所を紹介し、他国への興味・関心をもたせる。</p>	<p>※相手に思いが伝わるように、話す速さ、声の大きさ、ジェスチャーを意識することで英語表現の素地を育てる。</p> <p>※外国語教育指導員の出身国の好きな場所を伝えてもらうことで児童の国際的な視野を広げる。</p>	<p>相手に分かりやすく伝わるように、ジェスチャーを用いたり、指導者のサポートを受けたりしながら案内し、紹介した場所でアバターや外国語教育指導員とのやり取りをしようとしている。</p> <p>【ウ-②】 (行動観察・発表・記録)</p>
まとめ 5分	個人	<p>6 Reflection 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○振り返りカードで、本時の活動を振り返るとともに、活動の感想を促し、挙手や口頭で答えさせる。</p>		

(3) 〈児童同士の発表の評価例〉

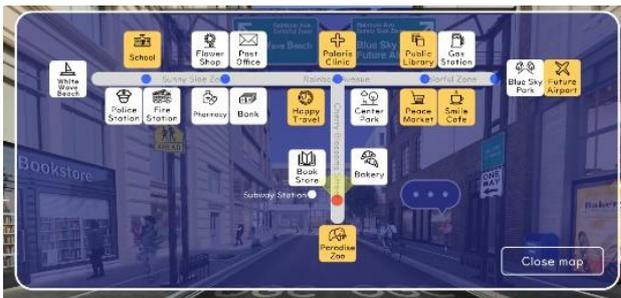
- ・ Let's go.や This is~, Turn Right. Turn Left. Go straight.の英語表現を使って自分の好きな場所を紹介したり、案内したりできる。
- ・ 場面に応じて適切な英語表現を選んでいる。
- ・ 紹介した場所でアバターや外国語教育指導員とのやり取りが自然にできている。
- ・ ジェスチャーなどの動作も加えて、十分に伝えたいという思いがある。

ペア 1 の発表

Hello! I'm (児童名). I'm (児童名).
Let's go to our favorite place.

[先生が画面を操作しながら]

Go straight.
Turn right.
We're here!
This is Smile Cafe.



[発表者は画面の方に体を向け、アバターと話す]

アバター : Hello, welcome! How many?
発表者 : 2 please.
アバター : What would you like to order?
発表者 : Hamburger please?
外国語教育指導員 : Here you are.
発表者 : Thank you!



- ・ 道案内をする時に Right, Left, Go の単語に加えて、補助的にジェスチャーを加えながら案内している。好きな場所を単語で紹介している。
- ・ 友達や指導者のサポートを受けながら、英語表現を選んでいる。
- ・ 紹介した場所でアバターや外国語教育指導員とのやり取りに挑戦している。
- ・ 言いたいことは伝わり、伝えたいという思いがある。

ペア 2 の発表

Hello! I'm (児童名). I'm (児童名).
Let's go favorite place.

[先生が画面を操作しながら]

Straight!
Right!
Here!
Smile Cafe.

[発表者は画面の方に体を向け、アバターと話す]

アバター : Hello, welcome! How many?
発表者 : 2.
アバター : What would you like to order?
発表者 : Hamburger.
外国語教育指導員 : Here you are.
発表者 : Thank you!